イノベーション ナビ　つながる知恵。進化する技術。未来を読み解くナビゲーション。

防災 備える未来　ドローン 空からの視点　生成AI AIが変える創造の現場　セキュリティ 攻めのセキュリティへ

JEAS、ロスプリベンション東京共同宣言

「小売業の未来に、ロスは残さない」採択
万引やレジ不正対策話し合う



事例報告などに登壇したＪＥＡＳの会長、理事、会員ら

アジア各国の小売業者の幹部らが一堂に会する「第22回アジア太平洋小売業者大会」が東京都千代田区の東京国際フォーラムで開かれ、工業会日本万引防止システム協会（ＪＥＡＳ、会長・稲本義範高千穂交易事業開発室上席コンサルタント）主催の「ロスプリベンション会議（万引やレジ不正対策）」が行われた。アジア太平洋地域でのロスプリベンションをテーマとした本格的な国際会議は初めて。

組織的小売犯罪（ＯＲＣ）や常習万引、不正返品、内部不正、サイバー犯罪、セルフレジ不正など、小売業を取り巻くロスの形態が複雑化する一方、人手不足や高齢化を背景として店舗運営の効率化が求められており、同会議では「ロス率低減と売場効率化の両立」をテーマに先進事例の共有と意見交換が行われた。

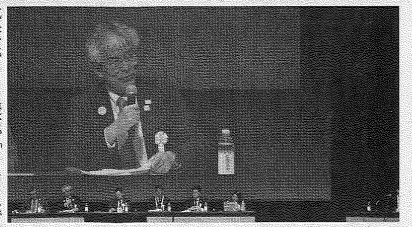
稲本会長は、江戸しぐさの「傘かしげ」などのパフォーマンスを交え「伝統と変化の文化」日本のロスプリベンション」と題して「あいさつ。コミュニケーションにおける礼儀やマナーの大切さや、万引きの認知件数と被害額の増加とともに常習犯対策の顔認証システムやセキュリティ製品の出荷が増えている現状を説明した。

屋美六雄・日本リテイリングセンター代表取締役チーフリサーチャーは「商品ロス対策か買い物環境か：リテール産業の課題」と題して講演。店舗経営において20世紀最大の発明とされるセルフサービスとその変遷に触れながら「お客にとって便利で容易に買い物ができる環境をいかに維持していくか、そして本来はお客に提供すべき店舗の大事な資産（商品）を守り、ロスを防いでいくかの二つの観点が店舗経営には不可欠だ」と強調した。

近江元ＪＥＡＳ副会長（エイシスリテイルサポート研究所顧問）は「アジアの小売業のロスと、経営課題のロス」と題し、エイジスグループによる調査結果などを報告。「ロスは小売業の経営に大きな影響を与える▽ロス対策には継続性が求められる▽ロス対策は組織的に行うことで初めて成果を得る」と提言。「ロスの原因の大部分は悪意がある、ないに関わらず人間によるもの」と述べ、事実としての数値、データの重要性を挙げた。

事例発表では、井上謙二ＪＥＡＳ理事（日本ＮＣＲコマースプロダクト＆プリセールス本部マネージャー）が「チェックアウトにおけるロス対策」として日米で導入されているソリューションや最新動向を紹介。日本の一部の小売店では古いレジなどが使われ、ＡＩやクラウドなどとつながりにくい状況であることから、変化への対応力や摩擦を減らすためにアーキテクチャーのレベルからの見直し必要があると指摘した。

葛天曼・ＪＥＡＳ会員（ＤａｈｕａＴｅｃｈｎｏｌｏｇｙＪａｐａｎ社執行責任者）は「欧州における小売ロスプリベンション 当社システムの効果的な事例と実践的な成果」と題し、統合型マルチシステムソリューションを活用して、ユーザーが直面する実践的な損失防止課題の解決の事例を報告。土田美那ＪＥＡＳ会員（ＡＷＬ上席執行役員兼ＣＨＲＯ）は「イノベーション・リテール 最前線レポート」として、万引きなど深刻なロス被害と日本発のＡＩエッジによる不正対策について報告。既存インフラと現場の知恵を融合した高精度の予兆検知がロスを削減し、収益を改善するかを示して「省人化とロス対策は両立できる」と述べた。


東京国際フォーラムで開催されたロスプリベンション会議

連携強化を宣言

会議では「ロスプリベンション東京共同宣言2026」を採択した。「小売業の未来に、ロスは残さない」を共通理念に掲げ、人の安全と尊厳の尊重、国際的な協働の推進、ＡＩ・画像認識・ＲＦＩＤ・ＥＡＳなど新技術の責任ある活用、犯罪を起こさせにくい店舗環境づくり、次世代人材の育成、社会全体でのロス低減と、国境を越えた連携強化を宣言した。

ＪＥＡＳブース、多彩なロスプリベンション技術を紹介
小売、セキュリティ業界関係者らと活発な情報交換

大会期間中、イオンやニトリなど33社が参加する展示会「ＲＥＴＡＩＬＥＸＰＯＴｏｋｙｏ２０２６」が開催された。ＪＥＡＳ（日本万引防止システム協会）がブースを出展し、ロスプリベンション分野における最新技術や協会活動を紹介した。

ブースでは、防犯カメラ、顔認証システム、ＡＩ映像解析、ＥＡＳ（電子商品監視システム）、セルフレジ不正対策など、会員企業が提供する先進的なソリューションを展示。小売業界が直面する万引、組織的小売犯罪（ＯＲＣ）、内部不正などの課題に対する具体的な対策事例を発信した。

また、ＪＥＡＳが推進するロスプリベンション活動のドリンクコーナー向かい側に設置され、多くの来場者が立ち寄ったほか、協会内外の小売関係者やセキュリティ業界関係者との活発な情報交換の場となった。

来場者からは、日本における万引対策の考え方や、ＡＩを活用した防犯技術への関心が高く寄せられた。

ＪＥＡＳブースは会場内のドリンクコーナー向かい側に設置され、多くの来場者が立ち寄ったほか、協会内外の小売関係者やセキュリティ業界関係者との活発な情報交換の場となった。

来場者からは、日本における万引対策の考え方や、ＡＩを活用した防犯技術への関心が高く寄せられた。

創立25周年を記念して来場者先着４００名に記念のスマホたてポールペンを配布し、国際会議に参加した各国関係者との交流の場としても賑わいを見せた。


ＪＥＡＳのブース


次回開催地のマレーシアの代表ら


創価大学の学生ら



ロスプリベンション会議が盛大に開催された


来場者やスタッフで書いたメッセージ。メッセージは展示ブースに掲げられていた